

ほっと ハート



君ならできると信じてた

〇〇 〇〇

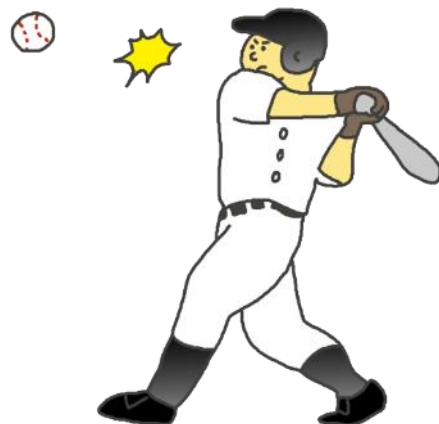
私は小学校一年生から少年野球チームに所属していました。同じ学校の子たちが多く所属していたので、交友関係も広がり毎日とても楽しくプレーしていました。3年生になってから他チームと試合をするようになったのですが、私は試合に出られないことが多くありました。

その原因として私はボールに対して恐怖感を持っており、ボールが飛んでくると無意識によけてしまっていたのです。その結果守ればゴロをトンネル、打撃ではボールが怖いあまりバットに当てられず三振の山。コーチからは「へたくそ」言われるばかりの毎日でした。自分の後から入ったほかの子がすぐに自分より上達していき、あまつさえ後輩たちにも追い越される状況に私自身悔しく一時期野球をやめてしまおうかとも思っていました。

しかし、そんな私に声をかけてくれたのはチームの外部コーチでした。その方は時折チームの練習を見学しに来るのですが、その際に自分を呼んで1対1で直接色々なことを教えてくれました。さらには学校の放課後に自分たちを集めてそこでも指導をしてくれました。そのおかげか、徐々に試合に出られるようになり、6年生のころにはほとんどの試合に出られるようになりました。

そんな6年生の最後の試合のことでした。その試合で私は2ベースヒットとヒット2つの合計3ヒットを打つ大活躍をしました。その試合の後でそのコーチに呼び止められて言われたのが、「君ならきっとできると信じていたよ」という一言でした。

どんな人にだって自分のことを見てくれる人は必ずいると思います。みなさんにはそのことを信じて、その人たちの期待に応えられるように努力ができるような人になってもらいたいと思います。



各学年の実践より 今回は、1年生の授業を紹介します

【主題】	【内容項目】	【教材名】
正直な心で	正直、誠実	どんぐり（出典『新しい道徳1』東京書籍）
【本時のねらい】		
<p>主人公の失敗談から、どうすべきだったか、なぜそうできなかったかを考える活動を通して、嘘をついたことを正直にいう難しさや、それでも正直であることが大切であることに気づき、嘘でごまかさず、間違いを認める正直な自分でいようとする心情を育てる。</p>		
【授業写真】		
		
【授業の様子】		
<p>「嘘をついてしまった主人公になんて声をかけるか」について議論したときには、やはり全員「正直に言った方がいい」と話した。しかし、その理由は様々であったが、「怒られるから」が多かった。「じゃあ怒られなかったら、嘘をついていてもいいってこと？」と担任が切り返すと、「確かに怒られるのはいやだけど、怒られるから正直に言うというのはちょっと違う気がする・・・。」と考え直す子供たち。ここから様々な意見が出て、怒られるからではない、どうして正直であることが大切なのかについて自分なりに納得できる答えに辿り着くことができた。</p>		
【子供の振り返り】		
<ul style="list-style-type: none"> ● 「嘘をついたら将来の夢がかなわないし、嫌われてしまう。」 ● 「嘘をやめないとどんどん嘘をつくようになってしまうから。」 ● 「大人になってから信用されなくなるから」 ● 「嘘をついているとずっとドキドキしてしまう。嘘をつかれてた人も嫌な気持ち。」 		

【ご家庭へ】

皆様は、どうして正直でいなければいけないですか？どうして嘘をついてはいけないのですか？誠実とはどんなことなのでしょうかと問われたら、なんと答えますか？

道徳の教科書に載っている教材文を通して、答えのない問いについて、自分の納得解を探す過程で、多くの友達の意見を聴き多様な考えに触れながら、自らの考えを問い直し、深めています。

「正直であること」は大切と、みなさんおっしゃると思います。しかし、その理由が「親や先生に怒られるから」でよいのでしょうか？お家でも改めて考えてみるのも良いかと思います。